

<第15回調査>

2010年9月6日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、今回2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資家動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年8月24日(火) 13:00～2010年8月31日(火) 13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、3555件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

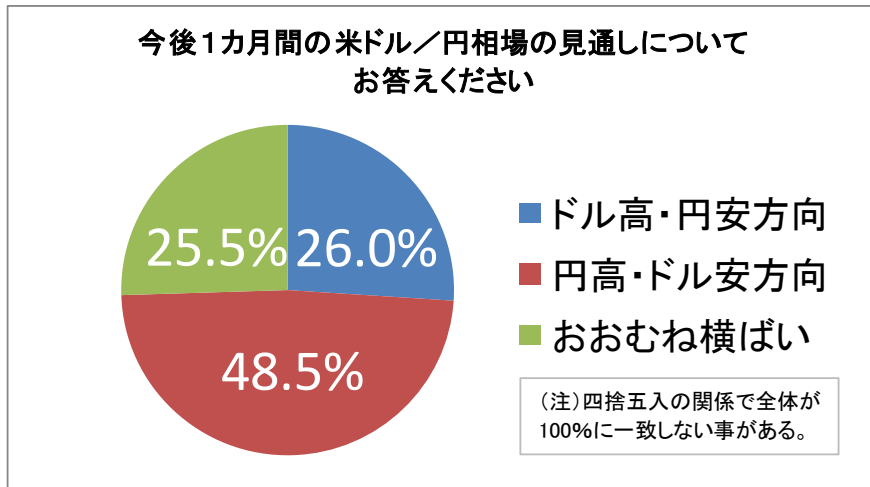
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第15回調査結果略報：ドル円予想DIは円高方向に転換】

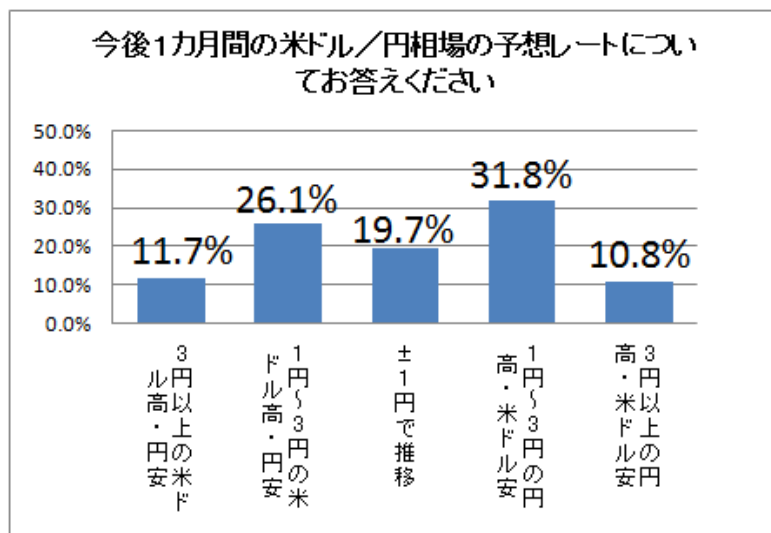
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が26.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が48.5%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲22.5%ポイントと、前回の+14.0%ポイントから急激に円高方向に転換した。調査期間中のドル/円相場は、米国の景気減速懸念を背景に、一時83円58銭と15年ぶりの安値を記録したが、一段の円高リスクが意識されているようだ。相場見通しを機動的に入れ替えるFX投資家の特徴が如実に表れている。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

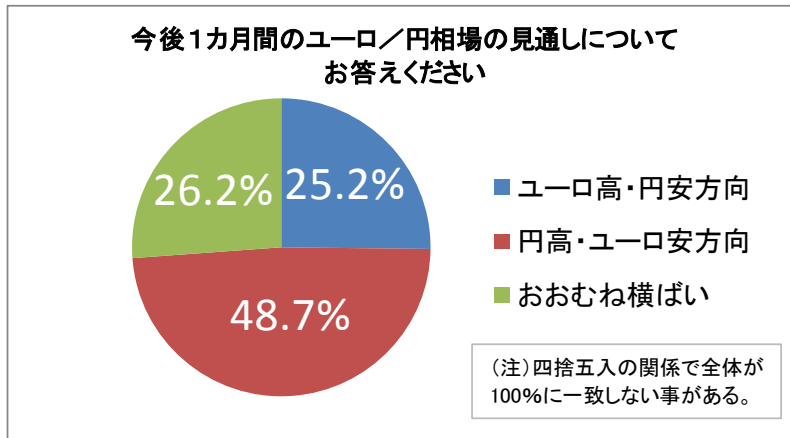
今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度の円高・ドル安」が31.8%と最も多く、「1円～3円程度のドル高・円安」が26.1%、「±1円」と答えた割合が19.7%、「3円以上のドル高・円安」が11.7%、「3円以上の円高・ドル安」が10.8%の順番になった。前回調査では円安側に傾いていたヒストグラムの形状は、今回はやや円高側に傾いており、問1の回答結果と同様に、急速に円高見通しが強まっている様子がうかがえる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

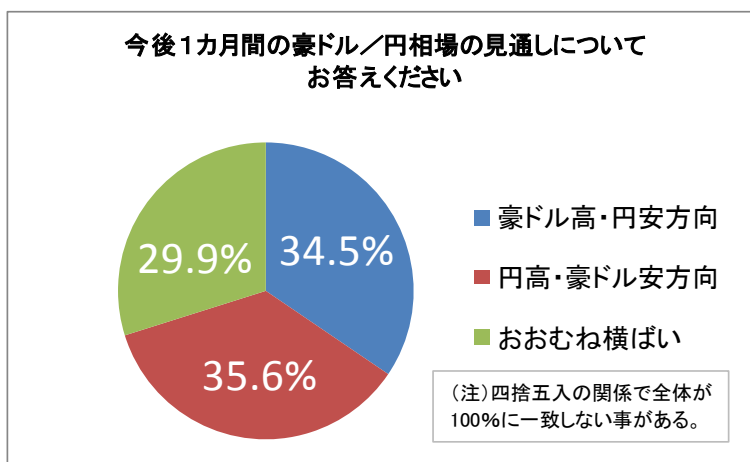
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ安・円高方向」と答えた割合が**48.7%**であったのに対し、「円安・ユーロ高方向」と答えた割合が**25.2%**となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は**▲23.5%**ポイントと、前回調査の+12.6ポイントから急激に円高方向に転換した。今回の調査期間の序盤には**105円42銭**という9年ぶりの安値を記録しており、ドル/円同様一段の円高を見込む向きが急速に増えている。前回調査において、ユーロ危機の後退を受けて8カ月ぶりにユーロ強気に転じた投資家心理はわずか1カ月でユーロ弱気に転じた格好だ。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が**34.5%**であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が**35.6%**となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は**▲1.1%**ポイントとなり、小幅とはいえ、2009年6月の調査開始以来初めて豪ドル弱気派が豪ドル強気派を上回った。調査期間中の豪ドル円相場は概ね74円～77円のレンジ内で推移しており、明確な方向感が出ていなかった。こうした中で、これまでFX投資家層に根強い人気を誇った豪ドルに対する見方がやや弱気に傾きつつある点は非常に興味深い変化であろう。豪ドルに対する弱気な見方が今後も続くのかどうか、次回以降の調査結果を見守りたい。

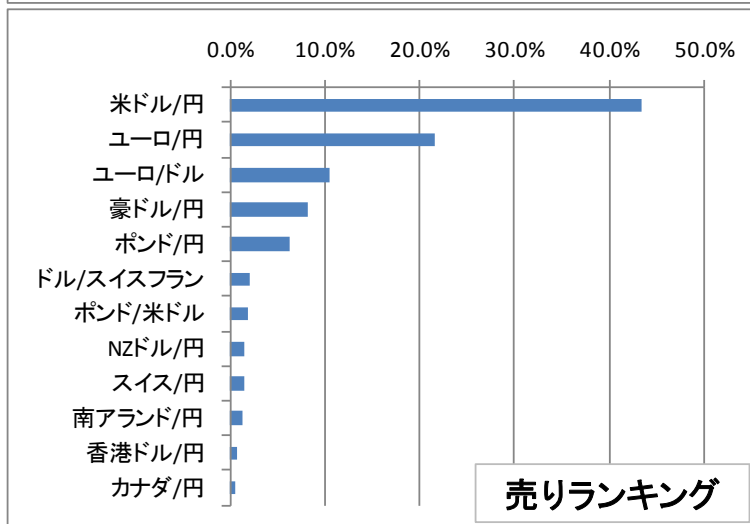
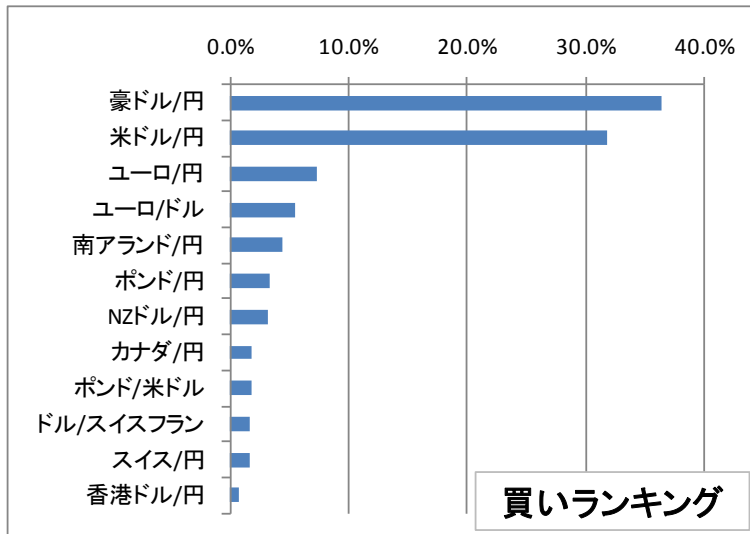


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(36.5%)、2位米ドル円(31.8%)、3位ユーロ円(7.3%)、4位ユーロドル(5.5%)と前回と同じ順位となり、5位は南アランド円(4.5%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(43.4%)、2位ユーロ円(21.5%)、3位ユーロドル(10.6%)、4位豪ドル円(8.2%)、5位ポンド円(6.2%)と前回と同じ順位になった。「買い」で注目の通貨ペアでは、問3で予想DIがマイナスに転じたものの、豪ドル円が6ヶ月連続で1位の座をキープしている。ただし、回答割合は前回の43.4%から36.5%に低下し、2位との差は前回の18.4%ポイントから4.7%ポイントに急接近している。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは前回に続きドル円がトップの座をキープした。その回答割合は前回の30.2%から43.4%へと増加しており、問1の回答結果からドル円予想DIが▲22.5ポイントとなり、ドル弱気派が増加した事と整合的な結果と言える。

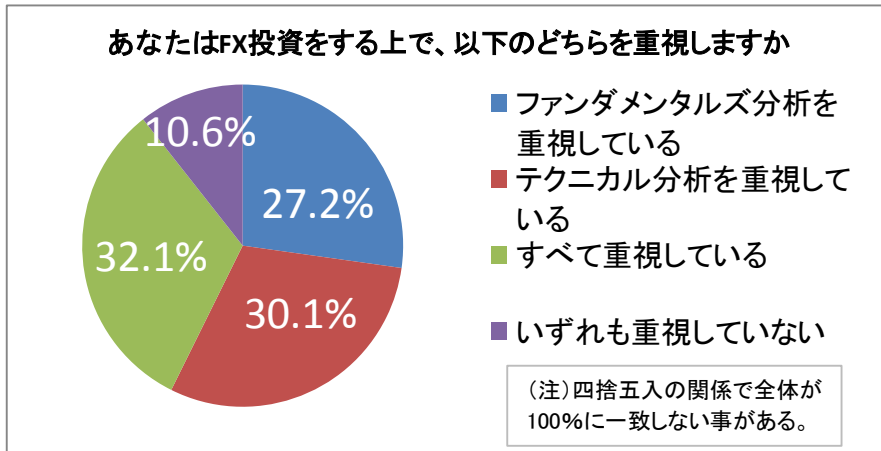


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

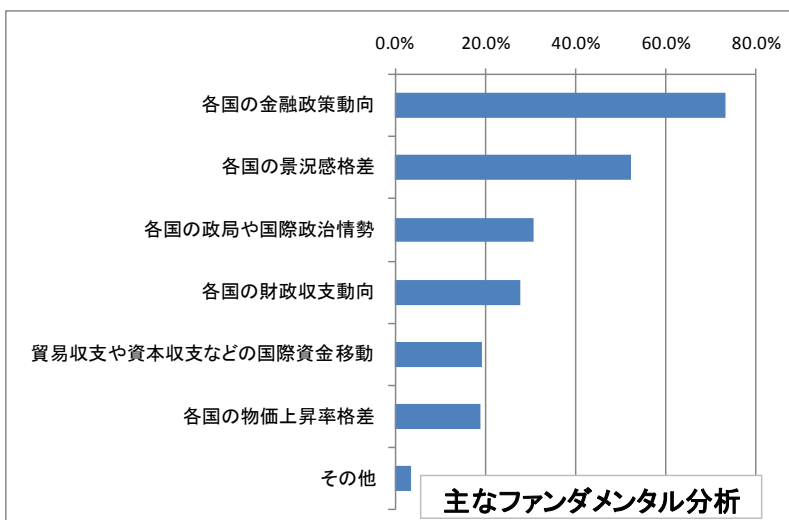
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.2%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が30.1%と、テクニカル重視派がやや上回った。前回調査では小幅ながらファンダメンタルズ重視派が上回っていたが、今回調査では再逆転している。もっとも「すべて重視」が32.1%と最大の回答割合となっており、ファンダメンタルズ・テクニカルの両面から投資戦略を組み立てるFX投資家が数多く存在する事が見て取れる。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(73.5%)」が最も高く、「各国の景況感格差(52.4%)」、、「各国の政局や国際政治情勢(30.7%)」、「各国の財政収支動向(27.8%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(19.3%)」の順に続いた。今回の調査では「金融政策動向」や「景況感格差」などの基本的な要因に続き、「各国の政局や国際政治情勢」を重視すると答えた割合が多かったことは、調査期間中が、民主党代表選挙を目前に控え日本の政局混迷が取りざたされた時期と重なった事と無縁ではなさそうだ。

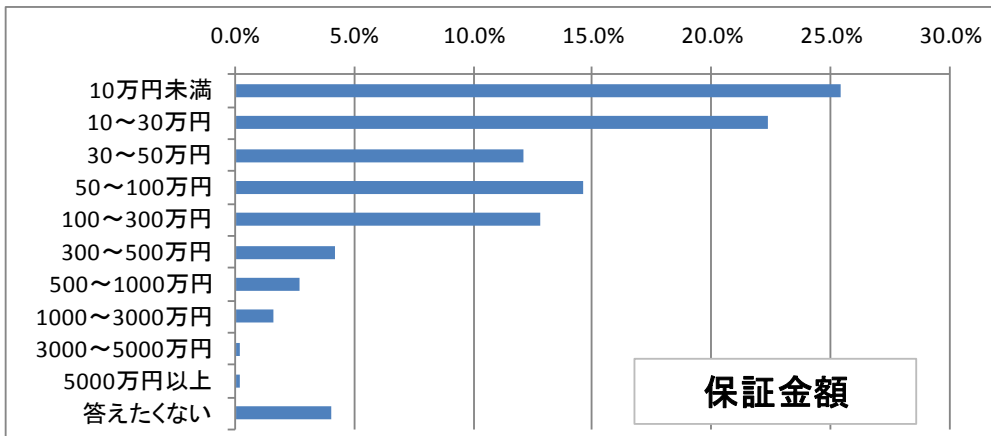


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

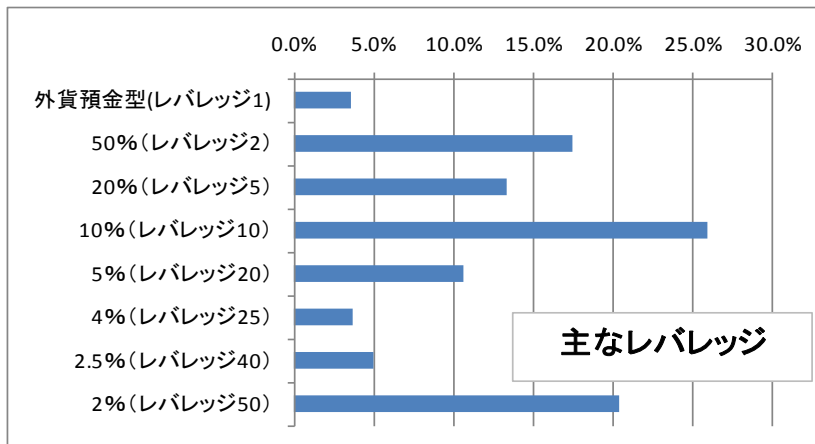
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(25.4%)が最も多く、10~30万円(22.4%)が2番目に多かった。以下、50~100万円が14.6%、100~300万円が12.8%、30~50万円が12.1%、300~500万円が4.1%となっている。引き続き、回答割合の順番は概ね保証金額の大きさと反比例の関係にあり、30万円以下と答えた合算の割合が47.8%と半数近くにのぼる。8月1日からレバレッジの上限は50倍に引き下げられたものの、依然として小額の保証金での取引に臨むFX投資家が多数を占める事が示された。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(26.0%)が最も多く、50倍(20.4%)が2番目に、2倍(17.4%)が3番目に多かった。これに次ぐ4位が5倍(13.4%)であった。前回の調査でも50倍と答えた割合が16.7%に増加していたが、今回はさらに20.4%に増加しており、8月1日から実施された規制を受けて、それまで50倍を超えるレバレッジで取引していたFX投資家が今回50倍を選択したものと考えられる。一方で、2倍と答えた割合も大きく増加しており、一部のFX投資家の間では低レバレッジでの、より安全な運用を志する向きが増えている可能性を示唆している。

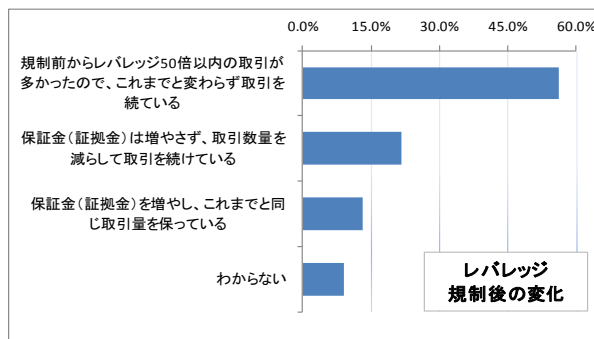


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

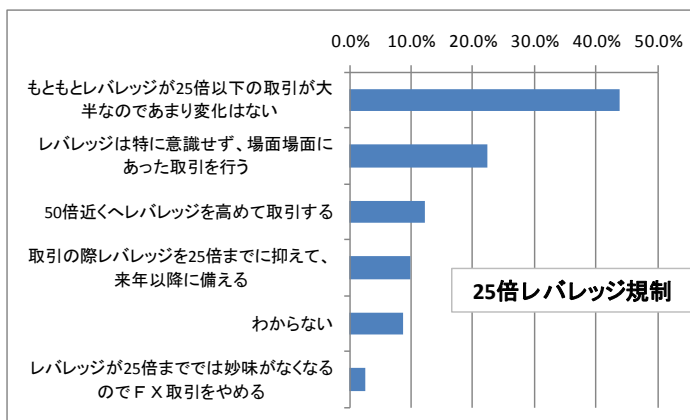
問10: 8月1日から、FX取引について、レバレッジの上限が50倍まで(証拠金率2%以上)となりました。この規制を受けて、約1カ月間のFX取引の変化についてお伺いいたします。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、いわゆるレバレッジ規制後の取引動向に変化があったかどうかについて尋ねたところ、「規制前からレバレッジ50倍以内の取引が多かったので、これまでと変わらず取引を続けている」との回答が56.2%を占め、前回7月に「規制後の取引の意向」について行った調査結果である59.5%からやや減少した。一方で「保証金は増やさず取引数量を減らした」が21.7%と前回の19.6%から増加、また「保証金を増やしてこれまでと同じ取引量を保っている」も13.0%と前回の12.1%から小幅増となった。ただ、いずれの変化も小幅なものであり、規制実施前に行った前回調査と規制実施後の実際の取引を踏まえた今回調査との間に顕著な変化は見られない結果となった。



問11: 平成23年8月1日からはレバレッジの上限が25倍まで(証拠金率4%以上)となります。レバレッジ25倍までの約1年間、あなたの投資スタイルはどのように変化すると思われますか。

今月の特別質問項目として、「レバレッジの上限が25倍までとなる今後約1年間の投資スタイルはどのように変化すると思われますか」と尋ねたところ、「もともと25倍以下のレバレッジでの取引が大半なのであまり変化はない」と答えた割合が43.9%、「レバレッジは特に意識せず場面場面にあった取引を行う」が22.5%と合わせて7割近くのFX投資家がもう一段の規制に際しても、自身の投資スタイルを変える意向がない事が示された。一方で、今後一年間は「50倍近くへレバレッジを高めて取引する」と答えた割合は12.3%となり、規制の範囲内での高レバレッジ取引を志向するFX投資家も少なからずいるようだ。また、2.6%と少数ながら、「妙味がなくなるので取引をやめる」と答えたFX投資家も存在する事が明らかになった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第15回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年程度ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を十分に提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com